

『グレート・リセット』を読む

「ダボス会議で語られるアフターコロナの世界」という副題がついた本書は2020年10月に刊行された。コロナ禍の世界を考えるうえで参考になる。はじめにから。

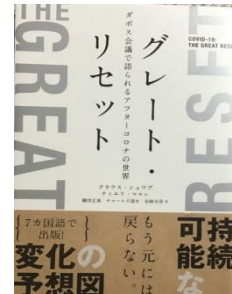
COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の世界的流行から始まったグローバルな危機。人々は今、近代史上前例のない事態に直面している。全世界、そしてすべての人々が、この百年で経験したことのない最も困難な時代に引きずりこまれているといっても決して言い過ぎではあるまい。

私たちにとって、今こそが決定的瞬間だ。私たちは今後何年もこの危機がもたらす問題に対処することになり、そして多くのことが元には戻らなくなる。経済が大混乱し、政治的にも、社会的にも、地政学的にも、ありとあらゆる分野でリスクの大きい不安定な時期に突入する。それが環境への深刻な懸念を引き起こし、有害か無害かは別にして人々の生活のすみずみにテクノロジーの波が押し寄せる。どんな産業や企業も、こうした変化がもたらす影響をまぬがれない。何百万という企業が存亡の危機にさらされ、多くの産業の将来は不透明になる。もちろん、繁栄する産業もいくつかはあるだろう。個人のレベルでみると、多くの人にとって今まで当たり前だった生き方が、驚くべき速さで崩れていく。

一方、深刻な個人の存在に関わる危機に見舞われるため、人々が自省する機会も増え、それが変化につながることも起きる。世界を分断する断層、とりわけ、社会の分断や不公正、協調の欠如、グローバルガバナンスやリーダーシップの破綻などが、地表にむき出しとなり、人々は今こそ根本から作り直すときだ、と気づく。新たな世界が姿を現す。その世界がどんなものかを、私たちは想像し、本書で描いていく。

パンデミックだけで、世界がすっかり変わってしまうことはないだろう。ただ、爆発する前からすでに始まっていた多くの変化を加速するだろうし、さらに別の変化を引き起こすことになる。唯一、確実なことは、変化は線型で起こるわけではなく、たいていの場合、山高く谷深い不連続線になるということだ。本書では、今後起きる変化を見きわめ、光を当てようとする。そしてより望ましい、持続可能な変化の予想図を詳しく説明し、ささやかに読者のお役に立てればと願う。

これから、将来の姿について概観するために、章を3つに分けて話を進める。最初の章では、パンデミックが、5つの主要なマクロカテゴリー、経済、社会、地政学、環境、そしてテクノロジーの要素に及ぼす影響を紹介する。第2章では、ミクロ、つまり特定の業界や企業についての視点からパンデミックの影響を考える。最後の章では、個人レベルで今後見られる可能性のある影響について仮説を立てていく。



(2021年4月12日)